

西3・9開発「ザ・タワー」完成



18階の部屋から、眼下に帯広の街並みが広がる

19階・高層マンション



天然大理石を使用したキッチン



グレードの高い設備・部品を標準仕様とした屋内



「ザ・タワー」の名にふさわしい高さ約60階の分譲マンション



分譲マンションの完成を喜び、右から小野崎担当課長、樋口専務、二瓶部長挨拶

帯広一の高さ
新たなシンボルに

帯広市西3・9周辺地区第一種市地再開発事業として建設が進められた新築高層分譲マンション「The TOWER OBIHARA（ザ・タワー 帯広）」が、市内西4南9に完成した。地上19階建て高さ約60階の施設は帯広一の高さを誇り、中心市街地の新たなシンボルとして注目を集めそうだ。

不動産開発のアルファコート（札幌市）による特別目的会社（SPC）が施行、鉄筋コンクリート造り、延べ床面積は1万4349平方メートル。2018年に着工し、10月末に完成した。今月下旬から順次、入居が始まる。

1階はラウンジや屋外テラスなどで、2階から居住スペース。2LDK・4LDKの147戸を数備えた。上階には広めに設置されたプレミアムタイプを用意した。キッチンの平台には大理石が使用されており、バスなどにもグレードの高い部品・設備が標準仕様となっている。分譲価格は2500万円台、1億3000万円台。

業界大手のフージャースコーポレーション（東京と大宮）が販売を担い、すでに約100室が成約。購入者の約8割を十勝在住者が占める。JR帯広駅北側（西2南1）に開設したモデルルーム（501・10800・416）を拠点に、今後も販売を続ける。

分譲マンションは、長年空室だった旧イトーヨーカドービル周辺の再整備事業。約22万㎡、全体事業費は約104億円の一大環。関連施設としては、新帯広経済センタービルに次ぐ完成となる。

6日には完成記念披露会を開き、一部公開した。アルファコートの樋口専務は「まちなか定住を通じ、帯広の地域活性化につなげる建物に仕上がった」と強調。フージャースコーポレーションの二瓶部長は「高層にこそ、地域のシンボルとなる建物になれば、大宮の小野崎洋北海道支店営業担当課長は「十勝は経済に活気がある地域。期待している」と話している。